



ガザニア

82 編は 賛歌。アサフの詩 です。アサフの賛歌としては最も短い詩編です。冒頭に 神は神聖な会議の中に立ち／神々の間で裁きを行われる。(1) とあり 会議、神々 といった不思議な言葉があり、興味を沸き立たせられます。

会議 という言葉は、詩編 82 編とエレミヤ書 23 章 18、22 節にあります。欽定訳では詩編で congregation (礼拝に集まった信徒の群れ)と訳し、エレミヤ書で counsel (相談)と訳し、また聖書協会訳では 集い と訳しています。エレミヤ書で語っているように 神聖な会議 は、神の裁きを聞くために神の前に集まることを意味しているのでしょうか。

この 会議 に集まった 神々 は 不正に裁き／神に逆らう者の味方をするのか。(2) 弱い人、貧しい人を救い／神に逆らう者の手から助け出せ。(4) と叱責されています。神々は無知で理解力がなく 闇の中を行き来する。地の基はことごとく揺らぐ。(5) と、地は闇と不安の状態になっています。

神 は「あなたたちは神々なのか／皆、いと高き方の子らなのか」と。(6) と、神聖な会議 に集まった者たちの内実を問います。そして、神々と称していても、地のものであり、しかし、あなたたちも人間として死ぬ。(7) と、裁きを受けるのです。詩人は 神よ、立ち上がり、地を裁いてください。あなたはすべての民を嗣業とされるでしょう。(8) と、神の子とされることを願っています。

神々 とは、聖書では金、銀、石、木など手で彫って作った人間の願望を投影させた偶像であり、神ではありません。けれども ヨシュアは民全員に告げた。「イスラエルの神、主はこう言われた。『あなたたちの先祖は、アブラハムとナホルの父テラを含めて、昔ユーフラテス川の向こうに住み、他の神々を拝んでいた。』(ヨシュア 24:2) とあるように、異民族が 神々 を持つことを受容してはいたのです。アサフが 神々の神、主は、御言葉を発し／日の出るところから日の入るところまで／地を呼び集められる。(詩 50:1) と前にも述べていたように、イスラエルの神は「神々の神」、「主」、「地」を超越する方」です。万物は被造物、神に従う者であり、神々 も、神に裁かれる存在です。

神を「わたしの父」と呼んだ主イエスを、ユダヤ人たちは神を冒瀆する者として石で打ち殺そうとした時、主イエスは 82 編を取り上げて反論し、彼らから逃げて、去っていった記事があります。「あなたたちの律法に、『わたしは言う。あなたたちは神々である』と書いてあるではないか。神の言葉を受けた人たちが、『神々』と言われている。そして、聖書が廢れることはありえない。それなら、父から聖なる者とされて世に遣わされたわたしが、『わたしは神の子である』と言ったからとて、どうして『神を冒瀆している』と言うのか。(ヨハネ 10:34) 私たちも 神々、神の子であれば、「嗣業」として、神に従い、弱者、貧者を救う働きをしなければなりません。

『讚美歌 21』では、関連する讚美歌はありませんが、私は 509「光の子になるため」を賛美したいです。 [21-509 \(rgr.jp\)](https://www.youtube.com/watch?v=ZxX5j3-Hn3w&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=82)

ジュネーブ詩編歌はピオラ・ダ・ガンバの重奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=ZxX5j3-Hn3w&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=82>